くらしナビ
社会保障

「暮らしを守る制度の実現を」

孤立出産の末、乳児を遺棄する事件が後を絶たない。親が育てられない子どもを匿名で受け入れる「赤ちゃんポスト」や、病院以外に身元を明かさない「内密出産」は熊本、東京の病院が導入し、大阪府泉佐野市は2026年度中の運用を目指すが、全国的な動きにはなっておらず、国は関与に消極的だ。海外では制度化が進み、識者は、予期せぬ妊娠を誰にも相談できない人々の背景にある困難に目を向け、支援すべきだと訴える。

内密出産、国の対応鈍く

女性を支援したNPO法人「Babyぽけっと」によると、24年度に同法人が受けた、思いがけない妊娠に関わる相談は876件に上る。20代が多いが、最近は30代にも広がる。経済的困窮や病気、多子世帯など複数の事情を持つ人が多い。

困難を抱える母子と向き合う医療機関が独自の取り組みに乗り出す中、国の動きは鈍い。熊本市の慈恵病院が19年に内密出産制度の導入を発表後、国は22年に指針を策定したが、子どもの出自に関する情報管理や開示は医療機関に委ねられたまま。出産後の母親への支援や、出自を知る権利の保障といった課題について「慎重に議論すべきだ」（こども家庭庁の担当者）との姿勢だ。立法を探る動きもあるが、道筋は見えていない。

安発明子さん

●30代からも相談

「現実が受け止められず、1人で抱え込んでしまった」。東京都の女性(29)は1月、生理の遅れとおなかの膨らみに気付いた。生活が苦しく風俗店で働いていたため父親は分からない。責められることを恐れ、誰にも妊娠を相談できぬまま中絶可能な期間が過ぎた。

転機は、乳児遺棄のニュースを目にしたこと。「自分はそうなりたくない」。インターネットで検索し、相談した支援団体のシェルターに入った。4月に男の子を出産。かわいくて涙がこぼれたが、将来を考え里親に託すことに。「命を守ることができ、相談して本当に良かった」と話す。

●「仏では年500人」

欧州では同様の制度を持つ国が複数あり、韓国でも内密出産と同様の制度を認める特別法が24年に施行された。パリ在住の子ども家庭福祉研究者、安発（あわ）明子さんによると、フランスでは希望すれば全ての病院で匿名のまま出産が可能で、年間500人前後が利用。匿名の女性が残した情報は国の機関で保管され、子どもが18歳になれば開示を求めることができる。

ただ、「安全に産める方法は必須だが、それだけで解決するわけではない」と安発さん。当事者の置かれた社会的、心理的な状況を確認することや、安全に暮らせる場所を確保するなど、具体的な支援が届く仕組みの強化が必要だと指摘する。

日本では虐待や貧困、障害のほか、ドメスティックバイオレンス被害といった脆弱（ぜいじゃく）な状況にある若者が性産業に搾取されるケースも多いとされる。安発さんは「内密出産を必要とする人がいるのは、社会保障の不足の結果。個人の問題ではなく社会課題として取り組むべきだ」とし、暮らしを守る制度の実現を求めた。

17世紀から匿名出産する女性を受け入れてきた病院＝パリで2023年10月、共同

ケアプラン有料化議論 厚労省

厚生労働省は、現在は自己負担がないケアマネジャーによるケアプラン（介護計画）作成などのケアマネジメントの有料化について、具体的な検討を始めた。導入する場合、有料とする対象や負担の程度の線引きにあたり、利用者の所得を考慮する方向性を示した。

20日の社会保障審議会介護保険部会で、ケアマネジメントについて「他の介護サービスと同様に、幅広い利用者に利用者負担を求めること」の議論を求めた。

ケアプランの作成は、介護保険の創設時から全額が保険給付されており、利用者は無料で利用できる。有料化はこれまでも検討されてきたが、介護サービスの利用控えにつながるなどの懸念があり、導入は見送られてきた。

2023年に閣議決定された社会保障の改革工程では、有料化について27年度に改定する介護保険事業計画の開始までに結論を出す、とされている。

厚労省は部会で、住宅型有料老人ホームの入居者を自己負担の対象とすることや、ケアマネジャーの事務経費は利用者負担とすべきだという考えも示した。

委員からは、高齢者の負担が増えて利用控えが生じることや、ケアマネジメントの中立、公正の確保の観点から有料化には慎重な考えが示された一方、「ケアマネジメントに対する利用者の関心を高めるためにも一律に負担を求めていくべきだ」「制度の持続のために必要」など、賛成する意見もあった。

【寺原多恵子】

学生バイトの年収制限 150万円未満に引き上げ 国民健康保険料

厚生労働省は、大学生年代（19～22歳）の子どもが、親の扶養にとどまり、自分で国民健康保険料を支払わなくてよい年収の上限を「130万円未満」から「150万円未満」に引き上げた。10月から見直した。年収150万円未満は保険料負担が生じない。手取りが減らないよう勤務時間を調整する学生アルバイトらの働き控えが緩和される可能性がある。

19～22歳の学生らはこれまで、年収130万円以上なら会社員など健康保険に加入する親の扶養から外れるため原則、国民健康保険への加入義務が生じ、保険料を支払っていた。保険料は自治体によって異なるが、厚労省の試算では年収130万円の場合、年7万円程度の保険料負担が発生していた。見直しで、年末年始にかけて深刻になると見込まれる人手不足の解消も期待される。

2025年度の税制改正では、19～22歳の子どもを扶養する親の所得税負担を軽減する制度を拡充。子どもの年収制限を103万円から150万円に引き上げた。保険料負担の年収上限もこれに合わせた形だ。

20歳以上は国民年金保険料を支払う義務もあるが、学生の場合は申請すれば特例で猶予される。

わたしの気持ち

2025.11.27

長距離列車の旅

「どこまで行くの？」「○○です」「私は、もう少し先の△△よ」

私が20代のころ、帰省のため乗っていた長距離列車内では、こんなふうに会話をしていた。

当時、名古屋から故郷の島根まで帰省するには、夕方に名古屋を出発、東海道線と山陰線を乗り継いで翌朝着くという長旅。17～18時間ほどかかっていたと思う。夜行列車内は薄暗く、座席は木製で4人掛け。乗り心地は決してよくなかった。

向かい合って座る人がいるので、自然と話をすることになる。田舎や家族、仕事のことなど初対面でも話が弾み、果物やお菓子の交換もしばしば。時間がたつのが早く、退屈しなかった。

別れ際には「元気でね」と言葉を交わした。一人旅でも苦にならず、むしろ楽しかった。

今は、新幹線や特急で列車はスピードアップし、車内も明るく清潔になった。そして、初めて会った乗客同士が会話する姿を見かけることは、ほとんどなくなった。

皆、取りつかれたようにスマートフォンを操作し、ノートパソコンでお仕事。耳にイヤホンをつけて音楽鑑賞などなど……取りつく島はない。下手に話しかけようものなら、不審者扱いされそうで乗り心地が悪い。

はるか昔の、長距離列車での旅が懐かしく思い出される。

名古屋市昭和区 山根 光男 無職・83歳

ほりえさわこさんの 食卓の一品

ブロッコリーのヨーグルトソースかけ

1人前 139キロカロリー、塩分 1.3グラム

≪主な材料≫（2人分）ブロッコリー150グラム▽ツナ缶1缶▽ラッキョウ粗みじん切り3粒分▽ヨーグルト½カップ▽みそ小さじ2

≪作り方≫

❶新聞紙にキッチンペーパーを重ね、その上にヨーグルトを広げ、水切りする。10分くらいおくとよい。

❷①に油をきったツナとラッキョウ、みそを加えて混ぜる。

❸ブロッコリーは小房に分け、耐熱容器に入れてラップをかけ、600ワットの電子レンジで2分ほど加熱、ザルにあげる。

❹③を器に盛り、②をかけていただく。お好みで七味唐辛子（材料外）をふってもよい。

浮動 545

上田 岳弘
倉田 悟 絵

「今こんな風に悠長にお話しているように感じるでしょうが、地球時間にしたら、0.000000001秒にも満たないわずかな時間です。こんな風にお話しできているのも言わばボーナスタイムのようなもの」

「ボーナスタイム？」

問い直す言葉を間違えたかもしれないと、声にした瞬間に思った。けれど、どういう問いかけがふさわしいのかわからない。

「さようです。ボーナスタイム。誤差みたいなものです。ちゃんとした世界が、ちゃんとしていない世界を統合し続けることで、このエリアが生まれます。観測不能な重力の塊そのもののような天体。それは、地球をはじめとした太陽系の惑星軌道に影響を及ぼすほどの重力を有しますが、ブラックホールほどでもない。今は詳しく話している時間はありません。とにかくやるべきことをやらないと」

「やるべきこと？」

まだ、また僕は間の抜けた問いかけをしてしまう。

「とは言っても、判断すべきことは実のところ一つです」

そう言って、壁博士は僕と二人の彼（かの）人に順繰りに視線を向けた。

「それは、ここから出ていくか否か。消滅するかどうかです」

「この場にいたら、消滅するんですか？　というか、そもそも消滅するってどういうことなんだろう？」

「この場にあるものは、二つの世界の統合から弾（はじ）かれてしまった、良い言い方をすればおまけ。悪い言い方するならノイズです。それも小さな小さなノイズです。そんなものが消えてしまったところで、大勢に全く影響はありません。そして、我々個々人にとっても苦痛はありません。巨大な重力によって圧縮される時間はほんの一瞬で、神経が痛みや苦しみを伝える速度を軽く超越していますから、何も感じることもありません。ですから、今我々に自ら課すべきは、ちゃんとした、どなたかの言葉を借りれば、それ故に残酷な世界に存在をしたいか、あるいは、完全に消滅し、そもそも自分自身をなかったことにしたいかどうか」

存在したいか、消滅したいか。

そんなこと、これまで真面目に考えたことがなかった。選ぶまでもなく、僕は否応（いなお）なくこの世に存在していて、自分の意志など関係なく生まれ、そして生き続けた。

広告